

< 幼児向き >

「パンダないきいたいそう」

いりやま さとし／作

講談社刊

なりきりたいそう はじめるよ！ バナナのポーズ ひこうきのポーズ…。パンダたちのだいへんしん！ きみはできるかな？ パンダといっしょに やってみよう！

「おたすけこびととおべんとう」

なかがわ ちひろ／文 コヨセ ジュンジ／絵
徳間書店刊

おたすけこびとたちが おべんとうのはいたつを ひきうけました。トラックにつんで さあしゅっぱつ！

「ごちゃまぜカメレオン」

エリック・カール／さく やぎた よしこ／やく
ほるぶ出版刊

カメレオンって いろが かわるよね？ でも あるひ もっとすがたが かわって しまいます。あれあれ どうなるのかな。

「じいじのさくら山」

松成 真理子／さく

白泉社刊

じいじは うれしいことがあると さくらをうえてきた。ことしも じいじのつくった さくら山で はるのまつりがはじまるよ。

「おなべおなべにえたかな？」

こいで やすこ／さく

福音館書店刊

きつねのきつこは おおばあちゃんに おなべのぼんを たのまれました。コトコトフツフツ ゲツゲツ…。はるのスープはどんなあじに なったかな？

「パンやのくまさん」

フィービ・ウォージントン／さく・え

セルビ・ウォージントン／さく・え

まさき るりこ／やく

福音館書店刊

パンやのくまさんは とてもはやくおきます。はたらきものの くまさんのおはなしです。

「このはなだれの？」

堀 浩／監修 内山 晟／写真

ひさかたチャイルド刊

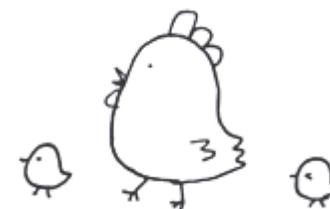
このおはな だれのかな？ わかるかな？ おおきなしゃしんえほん。ほんとうのおおきさの はなのしゃしんがのっている どうぶつもいるよ。

「ふるふるフルーツ」

ひがし なおこ／文 はらぺこめがね／絵

学研プラス刊

すいか バナナ オレンジ ぶどう はじけるフルーツあつまって もっとおいしく なりました。なにができたのかな？ 目と耳においしい絵本。



<低学年向き>

「ねこの商売」

林原 玉枝／文 二俣 英五郎／絵

福音館書店刊

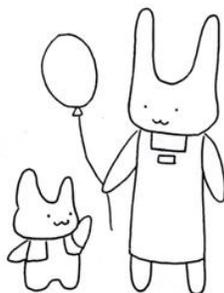
おきゃくさんがこなくなってしまったおまんじゅうやさん「幸福堂」のごしゅじんが『ねこのて おかしします』というはり紙をみつけました。そのばんごうにでんわしてみると…。

「オバケちゃんとおわむわむ」

松谷 みよ子／作 いたう ひろし／絵

講談社刊

オバケちゃんは、じぶんのすむ森だけでなく、ひろいよの中がしりたくて、ある夜こっそりと森をぬけだしました。そこでであったのは…。



「ランドセルがやってきた」

中川 ひろたか／文 村上 康成／絵

徳間書店刊

うみひこくんは、おじいちゃんにもらった青いランドセルをしょって、そとをひとまわり。よっ、いちねんせい！

「あさになったのでまどをあけますよ」

荒井 良二／著

偕成社刊

きょうも、あたらしい1日がはじまることってすばらしい。きみのまちは、はれてるかな。

「2ひきのかえる」

にいみ なんきち／作 しまだ・しほ／絵

理論社刊

おたがいの色のわるぐちを言ってけんかになった、みどりのかえるときいろのかえる。「春になったら このけんかのしょうぶをつける」とやくそくして土にもぐりました。やがて春がやってきて…。

「うまれたよ！ サンショウウオ」

松沢 陽士／写真・文

岩崎書店刊

たんぼのみずのなかで、サンショウウオのたまごをみつけたよ。なんどもすがたをかえて、おとなになっていくサンショウウオ。トウキョウサンショウウオをしゃしんでしようかい。

「パンどろぼう」

柴田 ケイコ／作

角川書店刊

パンどろぼうは大のパン好き。ぬすんだパンをおいしくたべる。きょうも「せかいいちおいしいもりのパンや」からぬすんだおいしいそうなパンをひとくちたべたとたん…。

「おさるのまいにち」

いたう ひろし／作・絵

講談社刊

「ぼくはおさるです。ぼくたちのまいにちをしようかいます。」 みんなのまいにちとにてるかな。

< 中学年向き >

「ふるとうぐ 古道具ほんなら堂」

～ちょっと不思議あい～

楠 章子／作 日置 由美子／画

毎日新聞社刊

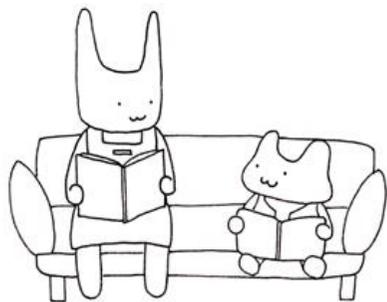
古道具屋のほんなら堂というちょっと不思議なお店がありました。優子はおばあちゃんが欲しがっているまめだのせっけんを探しにほんなら堂へやってきたのですが…。

「こぎつねルーファスのぼうけん」

アリソン・アトリー／作 石井 桃子／訳

岩波書店刊

ひとりぼっちの子ギツネは、やさしいアナグマさんの家族の一員になることができました。いろんなことに好奇心いっぱいの子ギツネルーファスのお話。



「じっけん きみの探知器」

山下 恵子／文 杉田 比呂美／絵

福音館書店刊

見たり、聞いたり、味わったり、においをかいだり、さわったり。当たり前だと思っているけど、とっても不思議なことなんだ。きみの探知器でじっけんしてみよう。

「なんでもただ会社」

ニコラ＝ド＝イルシング／作

末松 氷海子／訳 垂石 眞子／絵 講談社刊

三原 紫野／絵 日本標準刊

いたずらずきのティエリーは、ほしいものをなんでもただでくれる会社に、ぐうぜん電話してしまった。うらやましい？ うまい話にはご用心…！

「さくら村は大さわぎ」

朽木 祥／作 大社 玲子／絵

小学館刊

さくら村では子どもが生まれると、さくらの苗木を一本、植えることになっています。さくら村はどんなところなのでしょう。

「春の妖精たち スプリング・エフェメラル」

奥山 多恵子／文・絵

福音館書店刊

スプリング・エフェメラルとよばれる植物のなかまにカタクリやフクジュソウなどがあります。春の妖精のような花たちとはどんな植物なのでしょう。

「くまって、いいにおい」

ゆもと かずみ／文 ほりかわ りまこ／絵

徳間書店刊

森のみんなのなやみを聞かされるくまは、とうとうイヤになって「こんなにおいなくなっちゃえ！！」と。ぎこちなくてあたたかい友情のお話。

「本屋さんのルビねこ」

野中 柊／作 松本 圭以子／絵

理論社刊

モシモさんが営んでいる本屋「本の木」の看板ねこになったこねこのルビのお話。

<高学年向き>

「ヴァイキングの誓い」

ローズマリー・サトクリフ／作
金原 瑞人／訳 久慈 美貴／訳

ほるぷ出版刊

十世紀のヨーロッパ。少年ジェスティンは、ヴァイキングにさらわれ、奴隷として売られてしまう。ある事件をきっかけに、主人のトーモッドと兄弟の誓いを交わしたジェスティンは、ヴァイキング同士の戦いに巻き込まれるが…。

「さよならエルマおばあさん」

大塚 敦子／写真・文 小学館刊
病気でもう長くは生きられないと知ったエルマおばあさんとその家族の1年間の記録。

「土のコレクション」

栗田 宏一／著 フレーベル館刊
土にはいろいろな色や種類があります。日本にはどんな土があるのか、見てみよう。

「ゆかいな床井くん」

戸森 しろこ／著

講談社刊

わたし、三ヶ田 曆。床井くんはわたしのことを「ミケ」って呼ぶ。さわやかでやわらかな六年生の物語。

「みどりのゆび」

モーリス・ドリュオン／作 安東 次男／訳 岩波書店刊

自分が<みどりのゆび>をもっていることに気が付いた少年チト。<みどりのゆび>には不思議な力があります。その不思議な力を使って…。

「クローンダッグ」

今西 乃子／作

金の星社刊

航はある日、学校の帰りに原っぱでぼろぼろの段ボールに入っている傷ついた子犬を見つけ、置き去りにできなくなり…。

「幽霊屋敷貸します」

富安 陽子／作 篠崎 三朗／絵

新日本出版社刊

ときこ 季子の家族が引っ越した家はお婆さんの幽霊が出る幽霊屋敷だった。この家に住むためには幽霊が出す三つの試験に合格しなければならない。

「アフガニスタン

山の学校の子どもたち」

長倉 洋海／著・写真

借成社刊

窓ガラスも扉もない、教科書も足りない学校だけど、戦乱で傷ついた子どもたちは夢に向かってがんばっています。

「狐笛のあなた」

上橋 菜穂子／作

理論社刊

となりどうし、あらそいのたえない国。里のはずれにかくれ住む小夜と小春丸は霊狐の野火と出会って…。

